広島市植物公園が保有するシマカンギク８系統とノジギク３系統の特徴について

井上尚子・山本晃弘

広島市植物公園では1970年代から野生ギクのコレクションを維持しており、これまで多くの展示に用いてきた（図1、2、3）。2011年、2012年には、文部科学省ナショナルバイオリソースプロジェクト（NBRP）の支援を受けた広島大学から、新たに導入（2011年に9種1変種を21系統、2012年に13種1交配種を17系統）するなど、そのコレクションの充実に努めている。

今回は、これら野生ギクのコレクションのうちシマカンギク8系統とノジギク3系統（表1）について、栽培期間中に観察された特徴を記録することで、今後の系統維持や展示のための参考資料とする。

図1　ロッケリー展示　(2012年11月)

図2　特設花壇展示　(2019年12月)

図3　ロックガーデンの展示（2012年12月）

表1　広島市植物公園が保有するシマカンギクとノジギク

個体番号	和名	産地	導入年	導入元
j00772	シマカンギク	広島県	1996年以前	当園職員
j00774	シマカンギク	広島県	2008年	近藤芳子
j00791	シマカンギク	宮崎県	2011年	広島大学
j00792	シマカンギク	和歌山県	2011年	広島大学
j00793	シマカンギク	高知県	2011年	広島大学
j00794	シマカンギク	佐賀県	2011年	広島大学
j00795	シマカンギク	鹿児島県	2011年	広島大学
j00796	シマカンギク	長崎県	2011年	広島大学
j00779	ノジギク	山口県	2006年	当園職員
j00780	ノジギク※	高知県	2007年	近藤芳子
j00803	ノジギク	広島県	2011年	広島大学

※ここでは変種アシズリノジギクを区別していない

シマカンギク8系統の観察

シマカンギク8系統について、2011年から2013年にかけて開花期や葉のフェノロジー、葉形、草姿、冬至芽の出方を2株ずつ観察した。2012年は、2011年から育苗した苗を8月下旬に枝先を刈り込んで径21cmのプラスチック製スリット鉢に定植した。観察結果は、表2、図4、図5に示した。

鹿児島県産と長崎県産の6倍体のシマカンギクは、他と比較して開花期が遅く、葉も遅くまで青々としていた（表2）。また、草姿は他と比べやや剛直で、こんもりとした姿であった（図5）。

ノジギク3系統の観察

ノジギク3系統について、2011年から2013年にかけて開花期や、草姿、冬至芽の出方を観察した。2012年はシマカンギク同様、2株ずつ径21cmのプラスチック製スリット鉢に定植した。観察結果は、表3、図6に示した。

開花期は、山口県産・広島県産は11月中下旬に満開であったのに対し、高知県産は12月上旬に満開となった（表3）。草姿は、山口県産・広島県産は枝が伸びやすく、支えがなければ倒れたのに対し、高知県産はクッション状にまとまった形に育った（図6）。冬至芽を作る根茎は、山口県産・広島県産のものは地下にもぐる傾向が強かったのに対し、高知県産のものは地下にももぐるが地表面を這うものが多く（図6）、地植えにしてもこの性質は変わらなかった。

おわりに

栽培条件や気候の違いによって変化する可能性もあるが、シマカンギクとノジギクについて、草姿や葉に産地ごとの傾向がみられた。今後は他の野生ギクについても観察・記録を試みたい。

表２　シマカンギク８系統の開花状態と葉色　2012 年 12 月７日時点

記号	個体番号	産地	染色体数	開花状態	葉色
A	j00794	佐賀県	2n=6x	ほぼ終わり	赤〜黄褐
B	j00795	鹿児島県	2n=6x	満開すぎ	緑
C	j00796	長崎県	2n=6x	満開すぎ	緑
D	j00791	宮崎県	2n=4x	終わり	赤褐
E	j00792	和歌山県	2n=4x	満開	赤
F	j00793	高知県	2n=4x	2〜3 番花	赤褐
G	j00772	広島県福山市山野峡		終わり	暗紫
H	j00774	広島県神石郡		終わり	暗紫

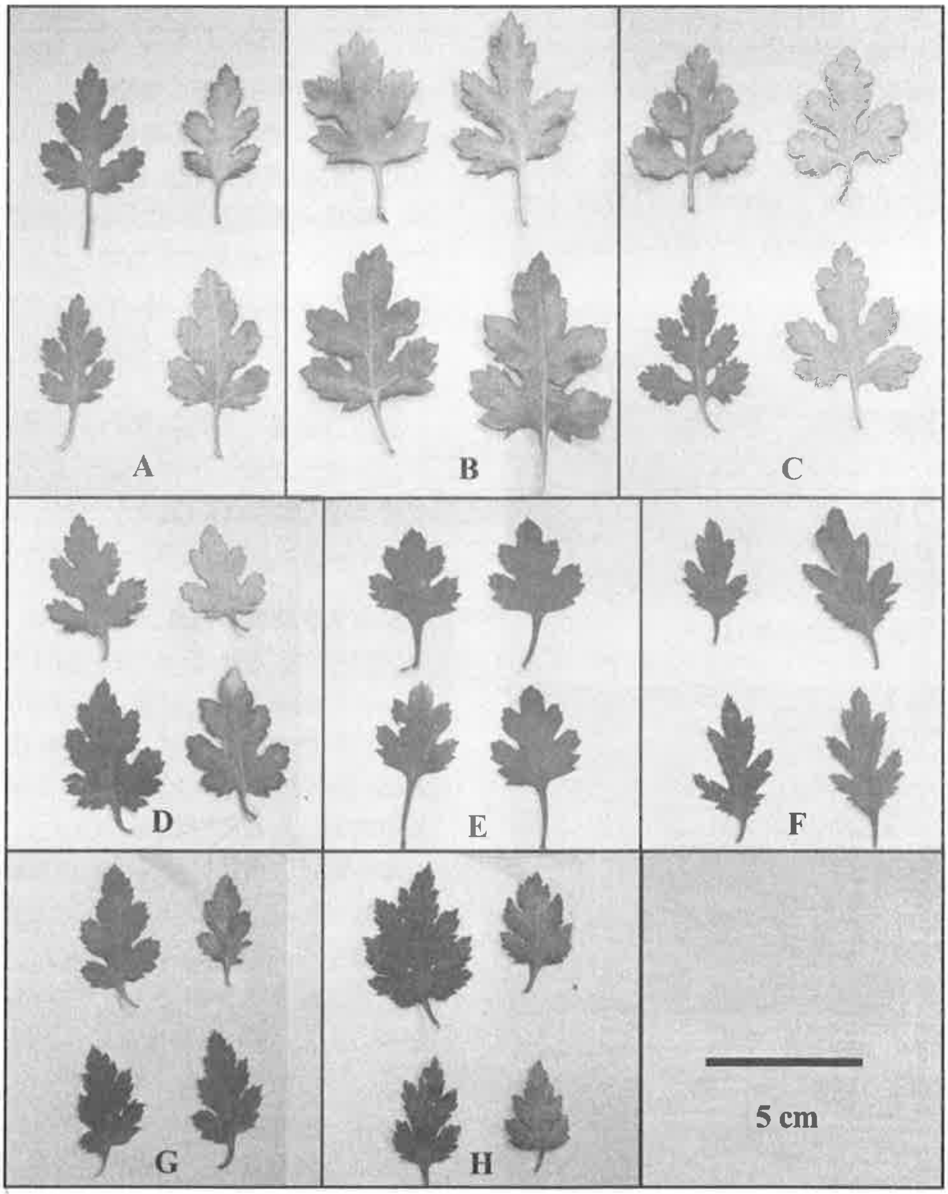

図４　シマカンギク８系統の葉形の比較　2012 年 12 月７日時点
一株から葉を４枚ずつ採取し、左側に表向き２枚、右側に裏向き２枚を並べて撮影
＊記号は表２に対応

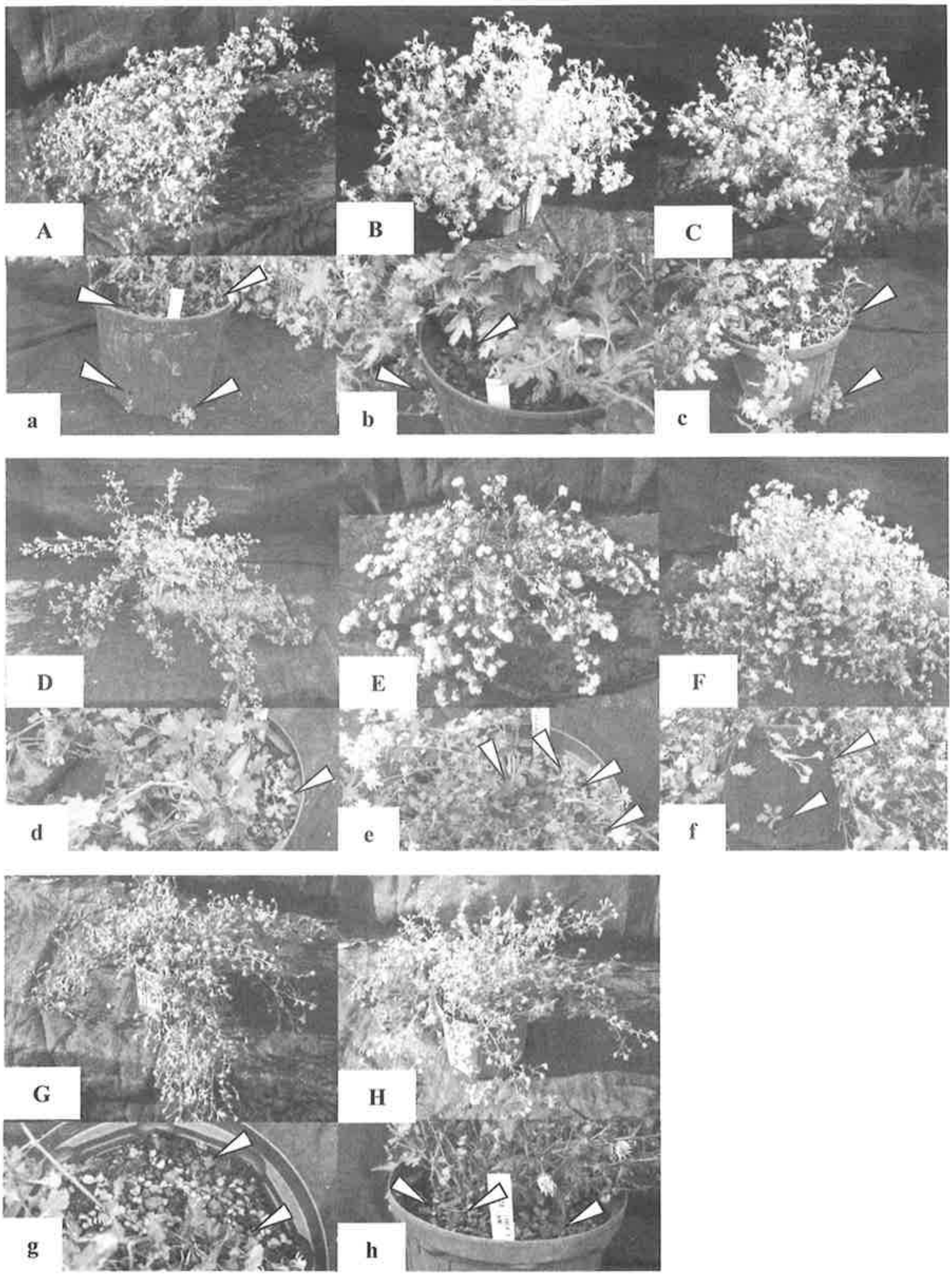

図５　シマカンギク８系統の草姿と冬至芽の様子　2012年12月16日時点

Ａ～Ｈ：草姿、ａ～ｈ：冬至芽の様子（一部の冬至芽を三角で示す）　＊記号は表２に対応

表3　ノジギク3系統の開花状態と草姿

記号	個体番号	産地	染色体数	開花期	草姿
A	j00780	高知県		12月上旬	クッション状
B	j00779	山口県		11月中下旬	倒伏状
C	j00803	広島県	2n=6x	11月中下旬	倒伏状

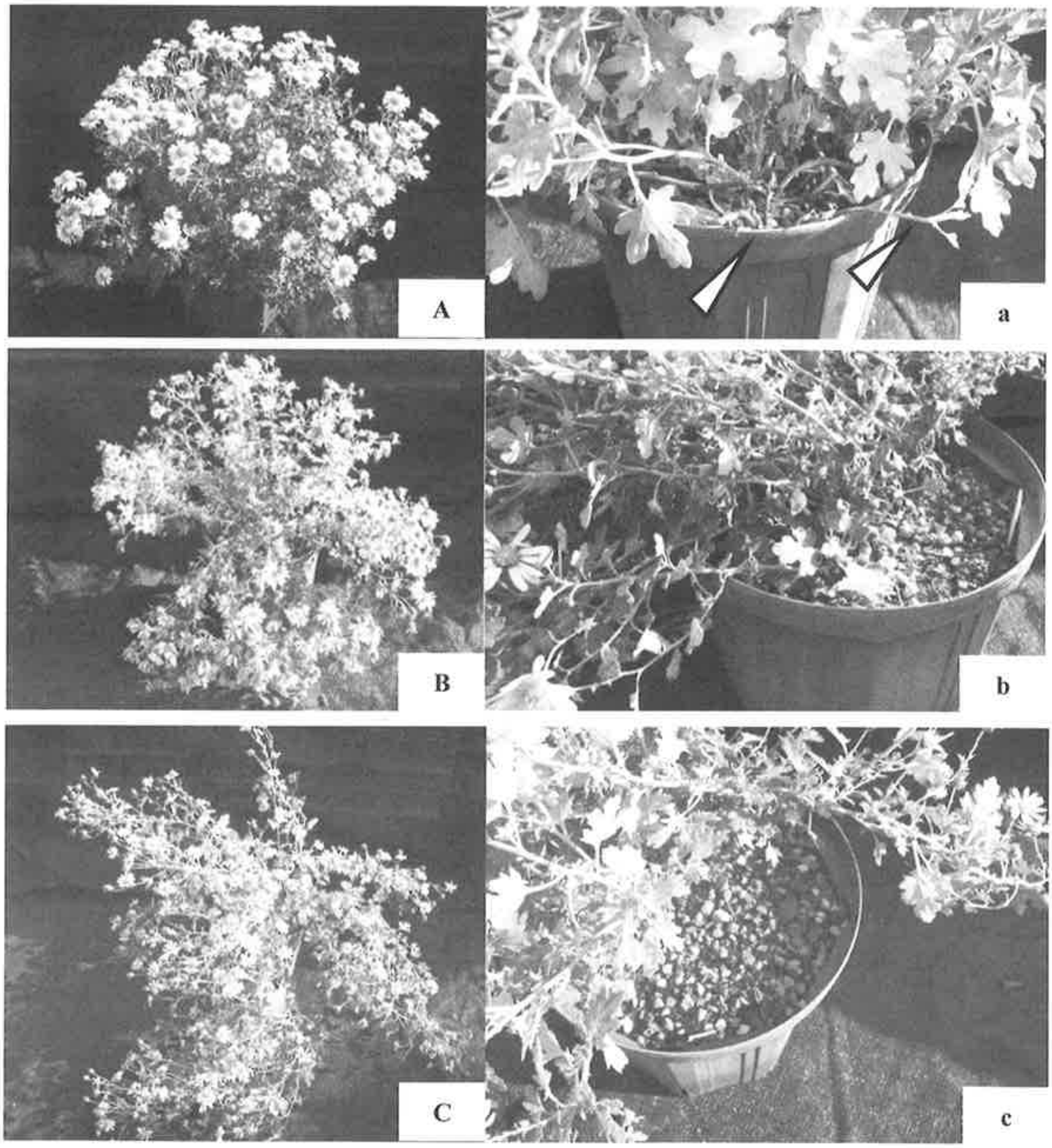

図6　ノジギク3系統の草姿と株もとの様子 2012年12月7日時点

A：高知県産、B：山口県産、C：広島県産

a：高知県産、b：山口県産、c：広島県産　　＊記号は表3に対応　一部の冬至芽を三角で示す